

しょうこうとうげんちょう  
曙光桃源調

加羅古呂庵 一泉

しょうとうげんちよう

## 曙光桃源調

青みを帯びた東の空が、しだいにオレンジ色に染まり、まばゆい日の光が、里山に取り囲まれた田畑や家々を照らし出します。縄文、弥生の昔から、人々は里山とともに、自然と調和した暮らしを積み重ねてきました。暁に照らされて活力ある一日が始まり、農耕や商流の発展とともに、里の賑わいは増していきました。

やがて、清らかな水が流れ、里山が連なる丘陵地帯だったところに、道が作られ、駅ができ、新しい街がつくられました。そして、戸建て住宅やマンションが立ち並び、商業施設やオフィスに人々が集う街へと発展してきたのです。桃の花こそ咲いてはいませんが、現代の桃源郷と言うのは過言でしょうか？

街が便利になればなるほど、自然との調和は失われていきます。かつての里山の暮らしに想いを馳せつつ、多くの人々が活力をもって暮らし、環境と調和した未来に向かってこの街がさらに発展していくことを願い、曲を作りました。

※縦譜につきましては、当該楽器のほかに他の楽器のパートを補助的に記載しています。ただし、複数のパートを集約し、オクターブも変えているところがあります。また、十七絃は箏に、2尺3寸管は1尺8寸管に置き換えて記載しています。正確には、五線譜（スコア）をご参照ください。

The musical score is written for seven instruments. The top three staves (尺八 I, II, III) are in treble clef with a key signature of one flat (B-flat). The 三味線 staff is also in treble clef with a key signature of one flat. The 箏 I and II staves are in treble clef with a key signature of one flat. The 十七絃 staff is in bass clef with a key signature of one flat. The score includes fingerings and specific notes for each instrument. The 箏 I and II staves have a '花雲調子' (Hanagumi) tuning indicated. The 十七絃 staff has a '斗為巾' (Touwa Kin) tuning indicated. The notes are: 尺八 I: 口, ピ; 尺八 II: 口, 四; 尺八 III: 口, ピ; 三味線: 二, 二, 三; 箏 I: 二, 三, 五, 七, 九, 斗, 為, 巾; 箏 II: 二, 三, 五, 七, 九, 斗, 為, 巾; 十七絃: 二, 三, 五, 七, 九, 1, 3, 5, 7.

運指、奏法については、適宜工夫していただいでけっこうです。